



開会式は、一〇〇日間にわたって行われ、多数の闘好と五〇〇頭の猛獣が使用されたと言われている。グランドの下奈落には、リフトなど色々な演出装置のほか猛獣の監置場や、闘好たちが出場を待つ部屋などあった。炎天下では、劇場の頂上の四方から大天幕を張ることも出来たと言う。動物の異臭や血のにおいを消すために香水をふりかける装置もあったそうである。

その後、地震や、中世に貴族の館や教会を造るのに、周囲を飾った大理石像・大理石板・円柱が奪い去られ、次第に今日の姿になったと言われている。

写真並びに説明

軸丸 勇

写真 上 テレビの泉

下 コロシヨウム内部

新刊案内

大友宗麟

二階崩れの巻

御手洗 一而作

出版社 新人物往来社

定価 二〇〇〇円

皆さんご存じの「佐伯の三青年」の作者御手洗さんが、今度大友宗麟の生涯を書かれ、その「二階崩れの巻」が発刊されました。

大友宗麟の放縦な少年時代から、廃嫡の危機、フランススコ・ザビエルとの出遭いまで、波乱に富んだ宗麟の生涯を描く大河小説です。

秋の夜長、読書の秋に一見をお奨めします。